

# 2025年12月のDATASALAD宿泊稼働指数

～12の地域ブロックのうち11地域で前年差マイナスに

2026年1月15日

公益財団法人九州経済調査協会 情報研究部

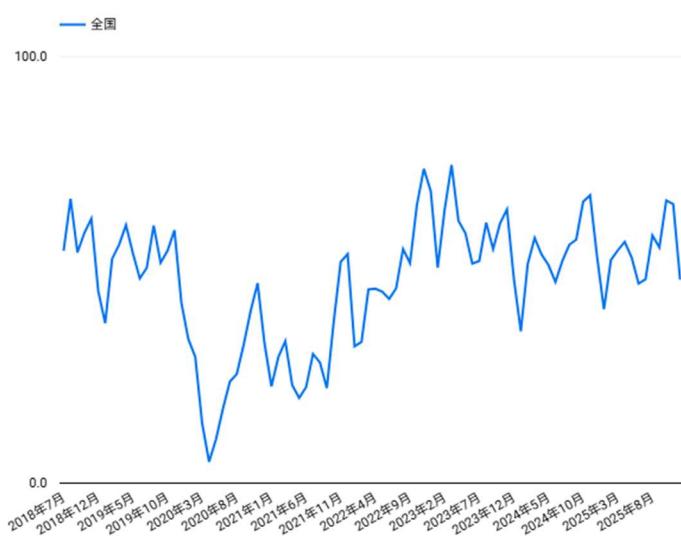
九経調 DATASALAD (<https://datasalad.jp/>) では、景気、産業、社会に関する政府統計に加え、人流や求人等のビッグデータ・オルタナティブデータを、地域の景気や産業の動向を分析する指標として加工、可視化している。

本稿では、当会が宿泊予約サイトより取得したデータをもとに算出している「宿泊稼働指数<sup>1</sup>」を活用し、2025年12月における宿泊施設の稼働動向を分析する。

## 1. 全国の宿泊稼働指数：2カ月連続で前年を下回る

2025年12月における全国の宿泊稼働指数は47.7で、前年差は▲5.5ptとなり、2カ月連続で前年を下回った。また、前月の65.4を下回り、2カ月連続で前月差がマイナスとなった（図1）。なお、コロナ禍前の同月と比較すると、2025年は2019年を上回っている（2019年12月：42.3）。

図1 宿泊稼働指数の推移（全国）

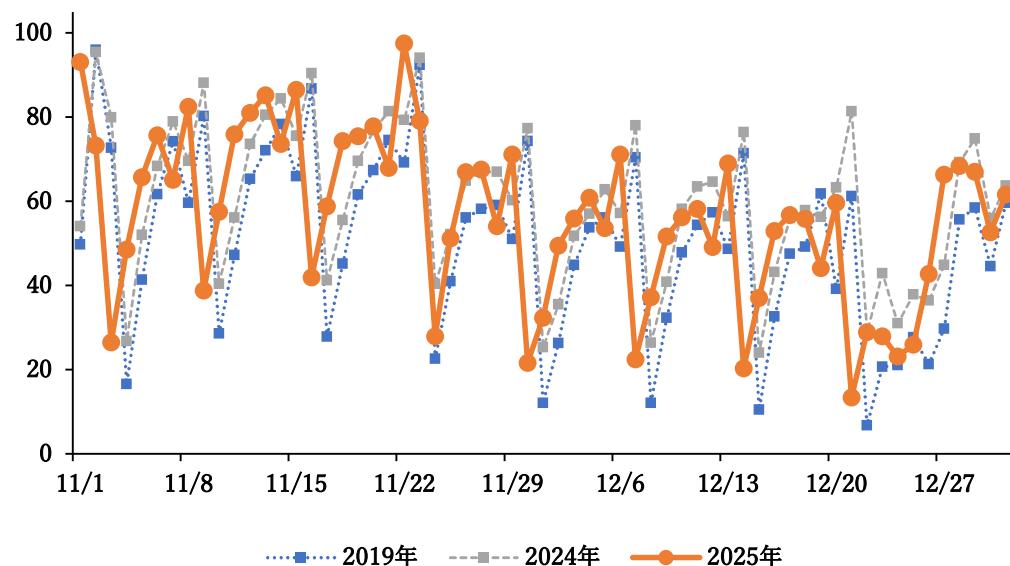


注) 2026年1月9日時点の推計値 資料) 九経調 DATASALAD

<sup>1</sup>宿泊稼働指数は日次の空室の水準を指数化したもので、九経調が独自に推計。原数値は0から100の間の数値をとり、稼働状況が良い場合は100に、稼働状況が悪い場合は0に近づく。算出方法は「参考資料」を参照  
なお、従業員不足等の供給制約による稼働率低下が指摘されるなか、本指数が宿泊予約サイトの空室情報を基に算出している関係で、統計上の延べ宿泊者数・施設稼働率よりも上振れしている可能性に留意が必要である

図2は2019年、2024年、2025年の11～12月の日別宿泊稼働指数推移を示している。これをみると、11月中については、全体を通じて2024年と同様の動きとなっているが、12月中は特にピークとなる土曜日、ボトムとなる日曜日の指数がいずれも2024年を下回っている。また、2025年は12月27日が土曜日、28日が日曜日となったことで26日が仕事納めとなった企業も多く、比較的長期休暇が取りやすかったこともあり、27日の宿泊稼働が2019年、2024年と比較して大きく上昇し、年末は堅調に推移している。

図2 直近2カ月の日別宿泊稼働指数の推移（全国）



注) 原数值 2026年1月9日時点の推計値

資料) 九経調 DATASALAD

## 2. 地域ブロック別の宿泊稼働指数： 11 地域で前年差マイナス

2025年12月の宿泊稼働指数を12の地域ブロック別にみると、南関東(59.7)で最も高く、以下東海(51.7)、沖縄(51.0)と続く（表1）。

前年との比較でプラスとなったのは沖縄のみ（前年差+1.0pt）で、11地域で前年差マイナスとなった。なお、九州は同▲5.5ptとなり、全国平均とほぼ同じマイナス幅となった。

前月との比較では、12地域のうち11地域で前月差マイナスとなった。なお、九州は同▲16.1ptで全国平均を1.6pt下回った。

表1 地域ブロック別宿泊稼働指数・前年差・前月差

	2024年 12月	2025年 11月	2025年 12月	前年差	前月差
全国	53.2	65.4	47.7	▲5.5	▲17.7
北海道	54.8	47.4	49.8	▲5.0	2.4
東北	39.9	55.7	38.2	▲1.7	▲17.5
北関東	58.1	63.4	49.1	▲9.0	▲14.3
南関東	63.4	74.2	59.7	▲3.7	▲14.5
甲信越	44.8	64.0	41.0	▲3.8	▲23.0
東海	55.5	66.5	51.7	▲3.8	▲14.8
北陸	36.0	63.8	31.4	▲4.6	▲32.4
近畿	55.0	65.5	45.7	▲9.3	▲19.8
中国	51.0	71.3	47.6	▲3.4	▲23.7
四国	47.9	70.7	42.7	▲5.2	▲28.0
九州	56.2	66.8	50.7	▲5.5	▲16.1
沖縄	50.0	67.4	51.0	1.0	▲16.4

注) 2026年1月9日時点の推計値 資料) 九経調 DATASALAD

表2 地域ブロック別宿泊稼働指数

<指順>

年月	地域	指数 ▼	前年同月差
1. 2025年12月	C0032 南関東	59.7	-3.7
2. 2025年12月	C005 東海	51.7	-3.8
3. 2025年12月	C011 沖縄	51.0	1.0
4. 2025年12月	C010 九州	50.7	-5.5
5. 2025年12月	C001 北海道	49.8	-5.0
6. 2025年12月	C0031 北関東	49.1	-9.0
7. 2025年12月	C008 中国	47.6	-3.4
8. 2025年12月	C007 近畿	45.7	-9.3
9. 2025年12月	C009 四国	42.7	-5.2
10. 2025年12月	C004 甲信越	41.0	-3.8
11. 2025年12月	C002 東北	38.2	-1.7
12. 2025年12月	C006 北陸	31.4	-4.6

<前年差順>

年月	地域	指数	前年同月差 ▼
1. 2025年12月	C011 沖縄	51.0	1.0
2. 2025年12月	C002 東北	38.2	-1.7
3. 2025年12月	C008 中国	47.6	-3.4
4. 2025年12月	C0032 南関東	59.7	-3.7
5. 2025年12月	C005 東海	51.7	-3.8
6. 2025年12月	C004 甲信越	41.0	-3.8
7. 2025年12月	C006 北陸	31.4	-4.6
8. 2025年12月	C001 北海道	49.8	-5.0
9. 2025年12月	C009 四国	42.7	-5.2
10. 2025年12月	C010 九州	50.7	-5.5
11. 2025年12月	C0031 北関東	49.1	-9.0
12. 2025年12月	C007 近畿	45.7	-9.3

注) 2026年1月9日時点の推計値 資料) 九経調 DATASALAD

### 3. 都道府県別の宿泊稼働状況： 35 都府県で前年差マイナス

2025 年 12 月の宿泊稼働指数を 47 都道府県別にみると、福岡県（64.4）で最も高く、以下埼玉県（63.7）、神奈川県（61.8）と続く（表 3）。

前年差は、宮城県（前年差 +7.5pt）、埼玉県（同 +5.0pt）などが大きくプラスとなった一方で、福井県（同 ▲16.0pt）、大阪府（同 ▲15.3pt）、香川県（同 ▲14.9pt）で大きくマイナスとなり、全体では 35 都府県でマイナスとなった。福井県は 2024 年の北陸新幹線延伸に伴い、2024 年の指数が高かったことの反動によるものと考えられる。また、大阪府や香川県をはじめ、比較的外国人旅行者比率が高い地域でマイナスが大きくなっている。

秋野 隆士（情報研究部 研究主査）

E-mail: akino@kerc.or.jp

表 3 都道府県別宿泊稼働指数・前年差・前月差

	2024年 12月	2025年 11月	2025年 12月	前年差	前月差		2024年 12月	2025年 11月	2025年 12月	前年差	前月差
	全国	53.2	65.4	47.7	▲ 5.5	▲ 17.7	三重県	50.5	63.6	48.9	▲ 1.6
北海道	54.8	47.4	49.8	▲ 5.0	2.4	滋賀県	53.7	77.6	51.0	▲ 2.7	▲ 26.6
青森県	43.4	61.0	43.7	0.3	▲ 17.3	京都府	54.3	70.8	45.7	▲ 8.6	▲ 25.1
岩手県	39.2	46.5	30.1	▲ 9.1	▲ 16.4	大阪府	58.5	59.7	43.2	▲ 15.3	▲ 16.5
宮城県	39.1	59.9	46.6	7.5	▲ 13.3	兵庫県	54.9	71.4	55.9	1.0	▲ 15.5
秋田県	39.8	51.5	36.4	▲ 3.4	▲ 15.1	奈良県	50.5	74.0	49.6	▲ 0.9	▲ 24.4
山形県	38.8	58.7	37.8	▲ 1.0	▲ 20.9	和歌山県	45.5	59.4	41.8	▲ 3.7	▲ 17.6
福島県	41.6	57.1	36.5	▲ 5.1	▲ 20.6	鳥取県	50.2	74.0	46.5	▲ 3.7	▲ 27.5
茨城県	58.5	58.9	50.9	▲ 7.6	▲ 8.0	島根県	49.5	80.3	52.4	2.9	▲ 27.9
栃木県	57.6	69.0	47.0	▲ 10.6	▲ 22.0	岡山県	56.2	70.5	51.5	▲ 4.7	▲ 19.0
群馬県	59.1	63.0	50.0	▲ 9.1	▲ 13.0	広島県	50.9	74.3	48.9	▲ 2.0	▲ 25.4
埼玉県	58.7	76.0	63.7	5.0	▲ 12.3	山口県	50.5	64.2	48.6	▲ 1.9	▲ 15.6
千葉県	56.3	68.9	54.4	▲ 1.9	▲ 14.5	徳島県	49.3	66.7	51.2	1.9	▲ 15.5
東京都	67.5	77.0	61.2	▲ 6.3	▲ 15.8	香川県	50.6	69.2	35.7	▲ 14.9	▲ 33.5
神奈川県	61.3	71.7	61.8	0.5	▲ 9.9	愛媛県	48.9	74.6	49.5	0.6	▲ 25.1
新潟県	35.7	56.1	33.2	▲ 2.5	▲ 22.9	高知県	46.5	76.6	45.1	▲ 1.4	▲ 31.5
富山県	30.2	56.3	30.2	0.0	▲ 26.1	福岡県	67.2	74.8	64.4	▲ 2.8	▲ 10.4
石川県	41.0	67.7	34.8	▲ 6.2	▲ 32.9	佐賀県	53.0	70.0	47.7	▲ 5.3	▲ 22.3
福井県	50.2	71.2	34.2	▲ 16.0	▲ 37.0	長崎県	49.2	67.6	47.4	▲ 1.8	▲ 20.2
山梨県	56.5	70.1	42.8	▲ 13.7	▲ 27.3	熊本県	52.5	68.8	45.7	▲ 6.8	▲ 23.1
長野県	47.3	67.6	47.6	0.3	▲ 20.0	大分県	54.4	66.6	52.8	▲ 1.6	▲ 13.8
岐阜県	50.8	66.8	43.5	▲ 7.3	▲ 23.3	宮崎県	50.2	62.1	49.3	▲ 0.9	▲ 12.8
静岡県	56.4	64.6	54.3	▲ 2.1	▲ 10.3	鹿児島県	48.0	63.3	50.5	2.5	▲ 12.8
愛知県	59.4	70.5	54.7	▲ 4.7	▲ 15.8	沖縄県	50.0	67.4	51.0	1.0	▲ 16.4

注) 2026 年 1 月 9 日時点の推計値 資料) 九経調 DATASALAD

表4 都道府県別宿泊稼働指標ランキング

&lt;指順・上位&gt;

年月	地域	指標	前年同月差
1. 2025年12月	40 福岡県	64.4	-2.8
2. 2025年12月	11 埼玉県	63.7	5.0
3. 2025年12月	14 神奈川県	61.8	0.5
4. 2025年12月	13 東京都	61.2	-6.3
5. 2025年12月	28 兵庫県	55.9	1.0
6. 2025年12月	23 愛知県	54.7	-4.7
7. 2025年12月	12 千葉県	54.4	-1.9
8. 2025年12月	22 静岡県	54.3	-2.1
9. 2025年12月	44 大分県	52.8	-1.6
10. 2025年12月	32 島根県	52.4	2.9
11. 2025年12月	33 岡山県	51.5	-4.7
12. 2025年12月	36 徳島県	51.2	1.9
13. 2025年12月	25 滋賀県	51.0	-2.7
14. 2025年12月	47 沖縄県	51.0	1.0
15. 2025年12月	08 茨城県	50.9	-7.6
16. 2025年12月	46 鹿児島県	50.5	2.5

&lt;前年差順・上位&gt;

年月	地域	指標	前年同月差
1. 2025年12月	04 宮城県	46.6	7.5
2. 2025年12月	11 埼玉県	63.7	5.0
3. 2025年12月	32 島根県	52.4	2.9
4. 2025年12月	46 鹿児島県	50.5	2.5
5. 2025年12月	36 徳島県	51.2	1.9
6. 2025年12月	47 沖縄県	51.0	1.0
7. 2025年12月	28 兵庫県	55.9	1.0
8. 2025年12月	38 愛媛県	49.5	0.6
9. 2025年12月	14 神奈川県	61.8	0.5
10. 2025年12月	20 長野県	47.6	0.3
11. 2025年12月	02 青森県	43.7	0.3
12. 2025年12月	16 富山県	30.2	0.0
13. 2025年12月	45 宮崎県	49.3	-0.9
14. 2025年12月	29 奈良県	49.6	-0.9
15. 2025年12月	06 山形県	37.8	-1.0
16. 2025年12月	39 高知県	45.1	-1.4

&lt;指順・下位&gt;

年月	地域	指標	前年同月差
1. 2025年12月	03 岩手県	30.1	-9.1
2. 2025年12月	16 富山県	30.2	0.0
3. 2025年12月	15 新潟県	33.2	-2.5
4. 2025年12月	18 福井県	34.2	-16.0
5. 2025年12月	17 石川県	34.8	-6.2
6. 2025年12月	37 香川県	35.7	-14.9
7. 2025年12月	05 秋田県	36.4	-3.4
8. 2025年12月	07 福島県	36.5	-5.1
9. 2025年12月	06 山形県	37.8	-1.0
10. 2025年12月	30 和歌山県	41.8	-3.7
11. 2025年12月	19 山梨県	42.8	-13.7
12. 2025年12月	27 大阪府	43.2	-15.3
13. 2025年12月	21 岐阜県	43.5	-7.3
14. 2025年12月	02 青森県	43.7	0.3
15. 2025年12月	39 高知県	45.1	-1.4
16. 2025年12月	43 熊本県	45.7	-6.8

&lt;前年差順・下位&gt;

年月	地域	指標	前年同月差
1. 2025年12月	18 福井県	34.2	-16.0
2. 2025年12月	27 大阪府	43.2	-15.3
3. 2025年12月	37 香川県	35.7	-14.9
4. 2025年12月	19 山梨県	42.8	-13.7
5. 2025年12月	09 栃木県	47.0	-10.6
6. 2025年12月	10 群馬県	50.0	-9.1
7. 2025年12月	03 岩手県	30.1	-9.1
8. 2025年12月	26 京都府	45.7	-8.6
9. 2025年12月	08 茨城県	50.9	-7.6
10. 2025年12月	21 岐阜県	43.5	-7.3
11. 2025年12月	43 熊本県	45.7	-6.8
12. 2025年12月	13 東京都	61.2	-6.3
13. 2025年12月	17 石川県	34.8	-6.2
14. 2025年12月	41 佐賀県	47.7	-5.3
15. 2025年12月	07 福島県	36.5	-5.1
16. 2025年12月	01 北海道	49.8	-5.0

注) 2026年1月9日時点の推計値

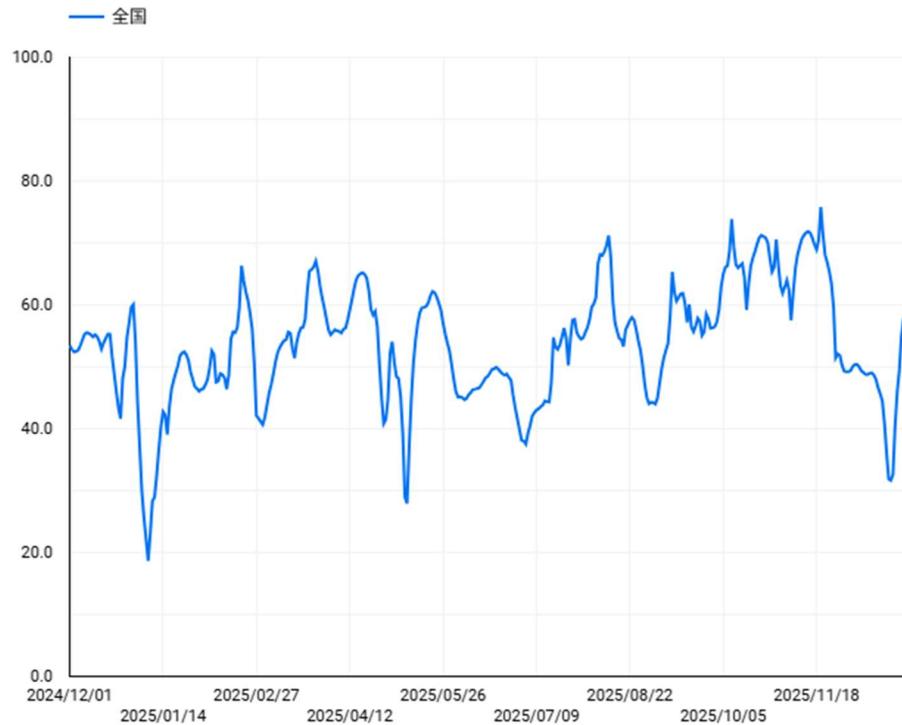
資料) 九経調 DATASALAD

公益財団法人 九州経済調査協会  
KYUSHU ECONOMIC RESEARCH CENTER

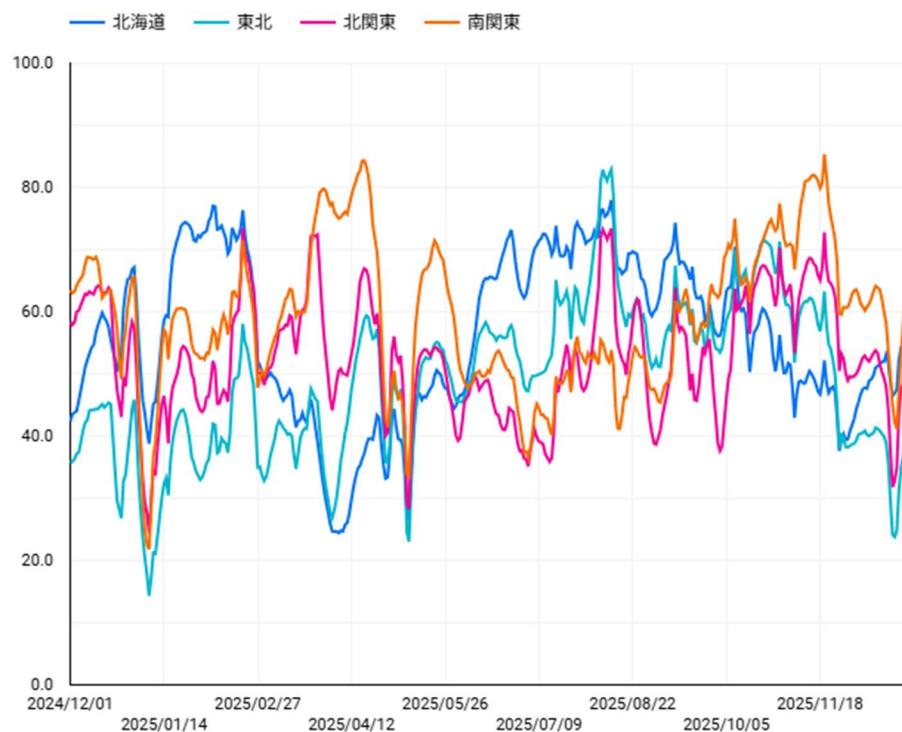
#### 4. 参考：日次推移

図3 全国・地域ブロック別の日次推移（トレンド成分）

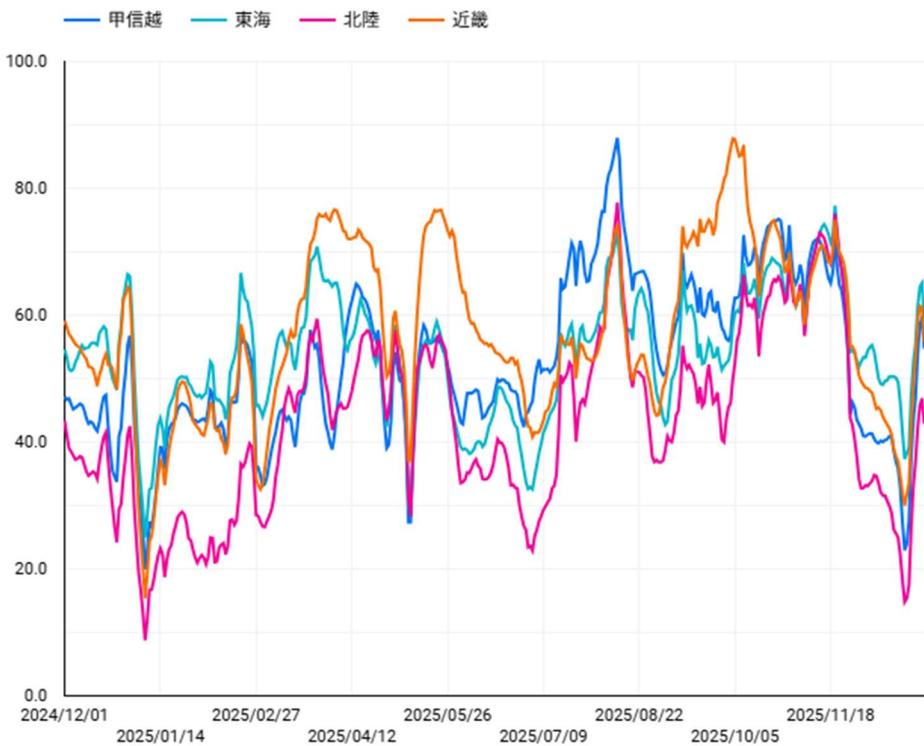
<全国>



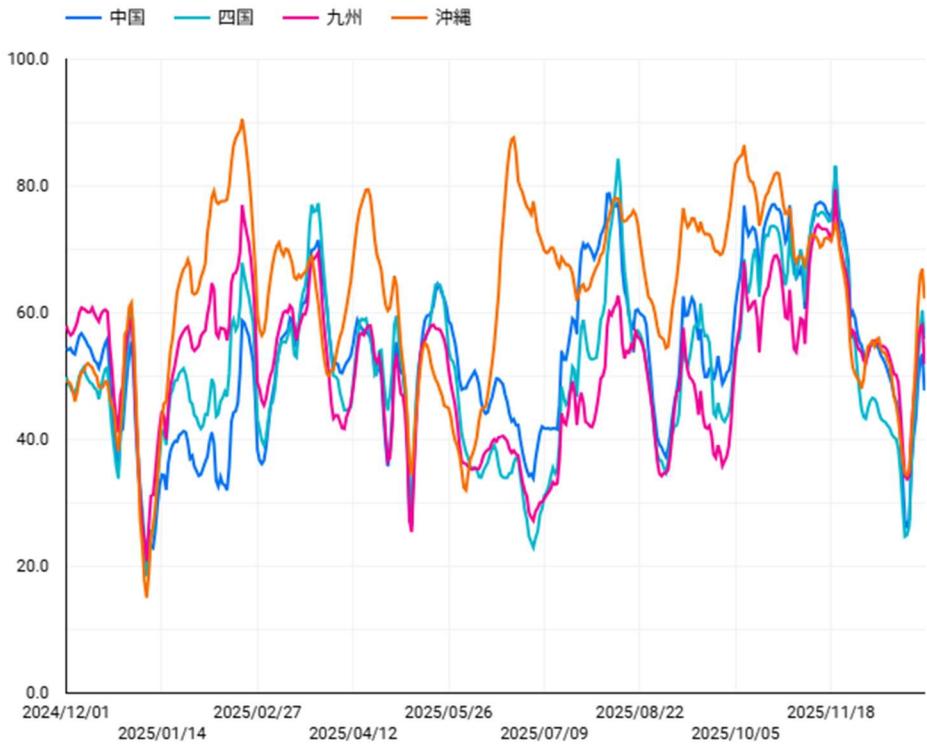
<北海道～南関東>



## &lt;甲信越～近畿&gt;



## &lt;中国～沖縄&gt;



注) 2026年1月9日時点の推計値 資料) 九経調 DATASALAD

## 参考資料

---

### 1. 宿泊稼働指数の算出方法

#### ■日次（原数値）

$100 - ((\text{当日の空室数} - \text{当日を含む過去 } 730 \text{ 日の最小空室数}) / (\text{当日を含む過去 } 730 \text{ 日の最大空室数} - \text{当日を含む過去 } 730 \text{ 日の最小空室数})) * 100$

※当該地域において、宿泊施設が過去 365 日以上連続して立地・稼働していると判定される場合に限り算出  
※空室情報の取得開始時期が 2017 年 7 月であるため、2018 年 7 月～2019 年 6 月については過去 365 日以上 730 日未満の最大・最小空室数より算出している

#### ■日次（トレンド成分）

「日次（原数値）」を 7 日間周期のデータとみなして要因分解し、曜日要因・イベント要因（イベント・その他の特殊要因）を除いたもの  
※「日次（原数値）」を 28 日分以上連続して算出可能に限り算出

#### ■日次（トレンド+イベント成分）

「日次（原数値）」を 7 日間周期のデータとみなして要因分解し、曜日要因を除いたもの  
※「日次（原数値）」を 28 日分以上連続して算出可能に限り算出

#### ■月平均指数

「日次（トレンド+イベント成分）」を月ごとに単純平均したもの

※ある日のある地域において空室データが存在しない場合は、当日を含む前 14 日間かつ当日を含む後 14 日間において平均空室数が 0 より大きければ、当該地域において宿泊施設が連続して立地・稼働していると判定  
※空室データの取得ができなかった日については、当日を含まない前 4 週間の同曜日の平均値により補間した上で要因分解を行っている

### 2. 緊急事態宣言発令に伴う対応

#### ■休業施設を除いた特別集計

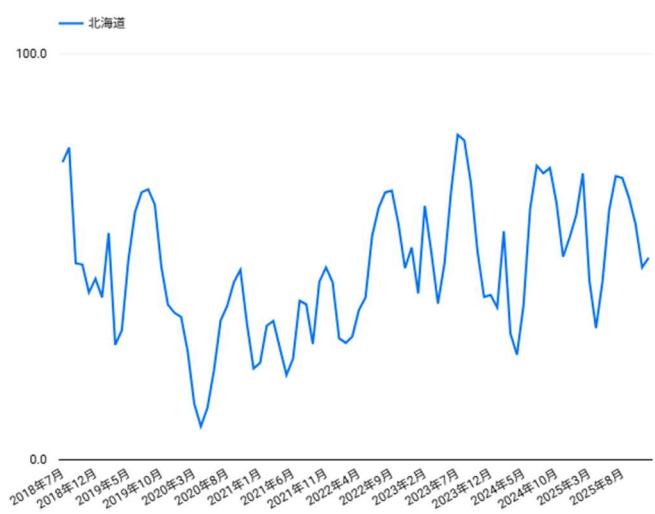
2020 年 4～5 月における緊急事態宣言の発令に伴い宿泊施設の休業がみられた。その影響がある 2020 年 4～6 月の宿泊稼働指数は、休業した宿泊施設を除くための処理を行って算出した。具体的には、2020 年 4 月に 20 日以上かつ 2020 年 5 月に 20 日以上空室が提供されている施設のみを対象に指数を算出した

#### ■特別集計との接続

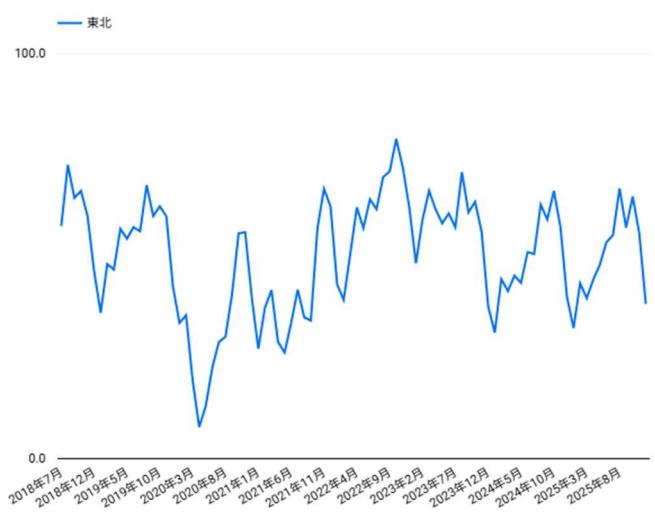
2021 年 4 月以降に発表している宿泊稼働指数は、全サンプルによる集計（2018 年 7 月～2020 年 3 月および 2020 年 7 月～）と上述の特別集計（2020 年 4 月～2020 年 6 月）を接続したものである。原数值を接続した上で、曜日調整をおこなっている

### 3. 地域ブロック別宿泊稼働指数の推移

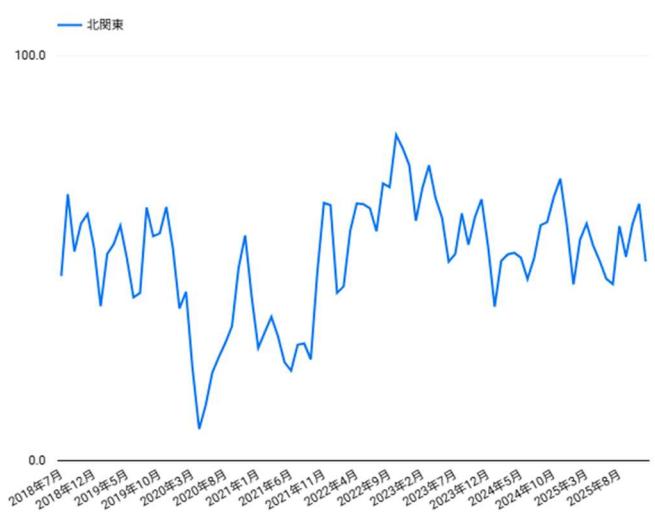
<北海道>



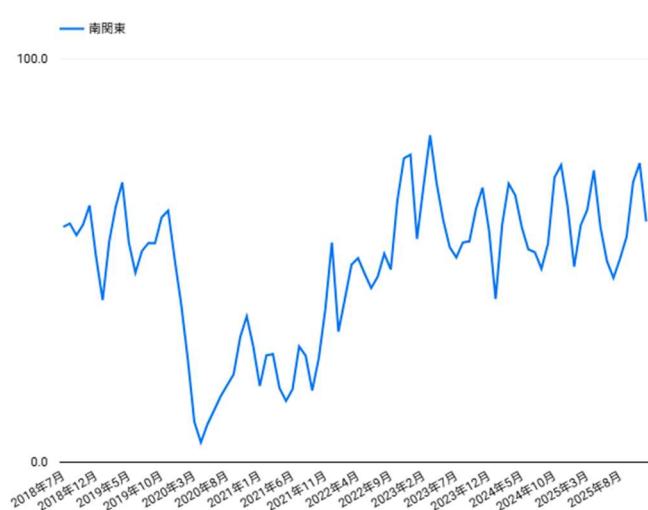
<東北>



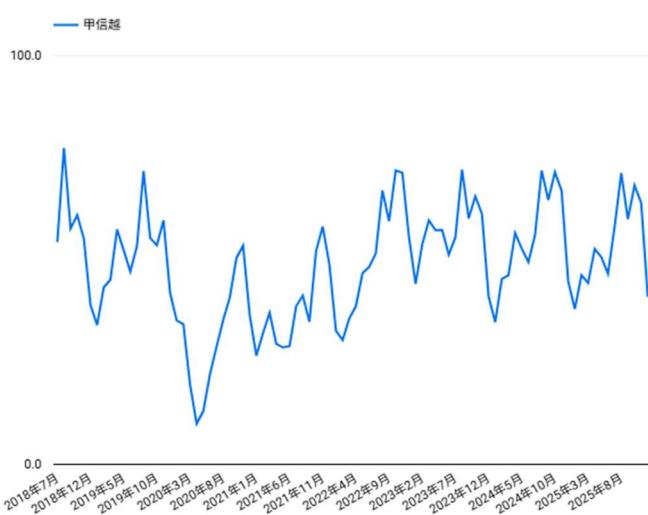
<北関東>



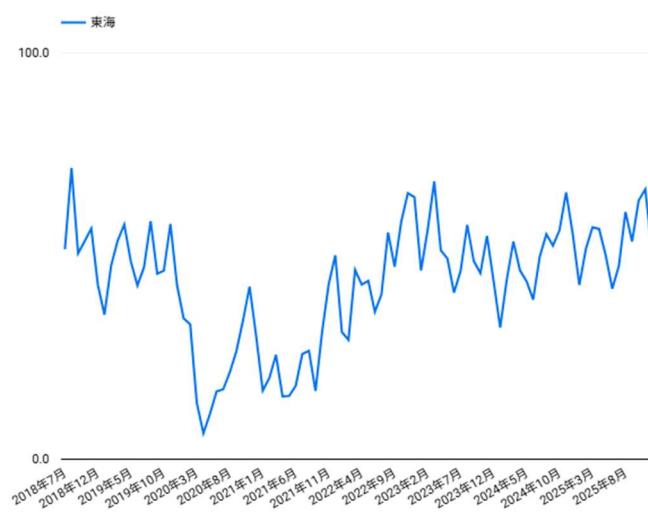
## &lt;南関東&gt;



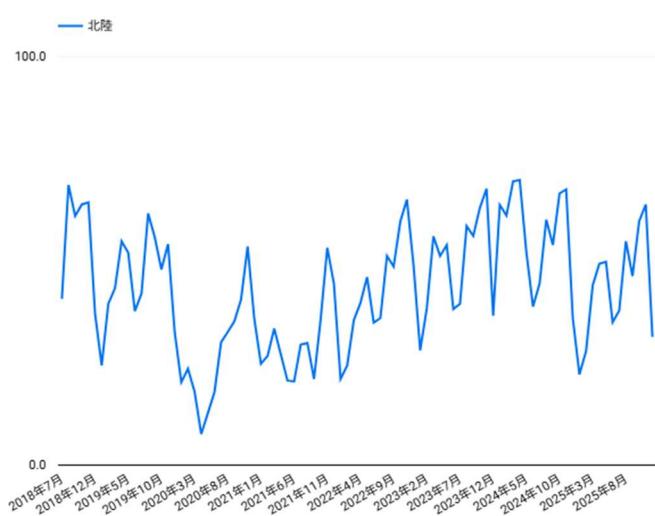
## &lt;甲信越&gt;



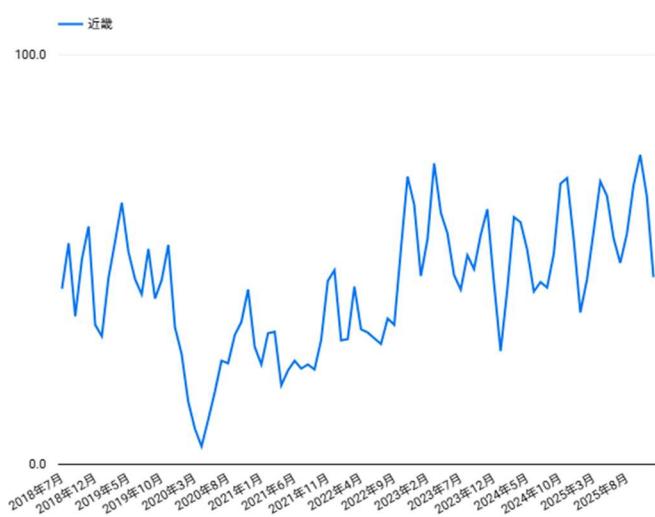
## &lt;東海&gt;



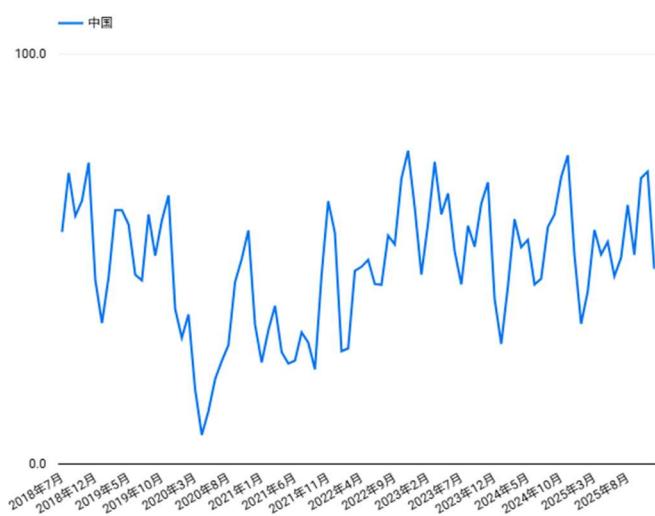
## &lt;北陸&gt;



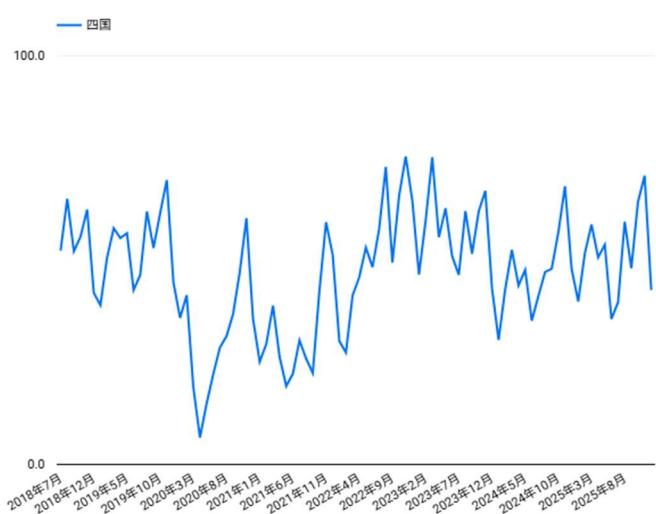
## &lt;近畿&gt;



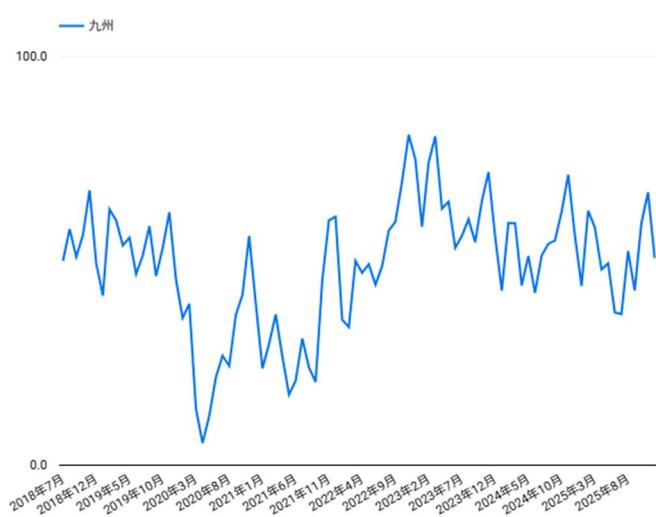
## &lt;中国&gt;



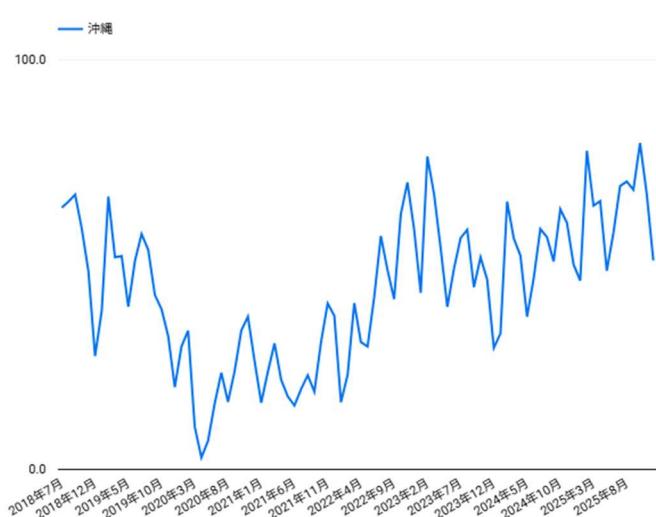
## &lt;四国&gt;



## &lt;九州&gt;



## &lt;沖縄&gt;



公益財団法人 九州経済調査協会  
KYUSHU ECONOMIC RESEARCH CENTER

